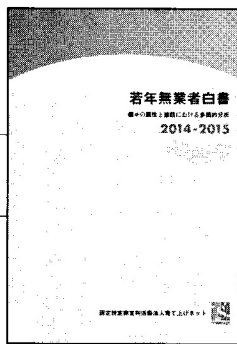


同書は、育て上げネット来所者に関する調査報告書である。

第1章「若年無業者の経歴による分析」では、2367人の若年無業者のデータを年代、職歴、無業期間別に分析する。「正規職で働いていたが、仕事でつま

ずき退職した後、長く就労に踏み出せないままの30代の若者」については、高学歴層が多いが、中退層も1割近くいる。正規職歴のある他の層が「PCを習いたい」を強く希望しているのに対して、「自分に合う仕事をしたい」「働ける自信をつけたい」を希望(6割強)している。性格については、「対人関係が苦手」(4割強)よりも、「よく真面目だねと言われる」「考えすぎてしまう」という傾向(6割前後)が目立つ。第2章「支援対象者とアウトカム」では、外に出て友人・知



小野塚亮 他著、NPO法人育て上げネット 編著  
3780円 パリューブックス  
☎0120-826-293

## 若年無業者白書 2014・2015

個々の属性と進路決定における多面的分析

人などと接している人は進路決定できているなどの傾向が示されている。第3章「ジョブトレ」と地域若者サポートステーションのアウトプット比較」では、育て上げネットの有償自主事業「ジョブトレ」(各自の個別的な課題設定に基づいた、グループ行動を基本とする継続的なメニュー)に利があったことから、本書では「サポステの支援に制約をかけている仕様書のあり方」に疑問を投げかけている。

同ネットへの来所者のなかには、旧帝大卒で一流企業社員の経歴をもつ若年無業者も多いと聞く。評者は考える。過去の学校歴社会の「制約」のままで、生徒の生涯にわたる個人的、社会的充実を保證する教育は実現できない。今日の個人化、流動化社会における、職場・家庭・地域での自己発揮のための基礎づくりこそ、学校教育の新たな役割というべきであろう。

(聖徳大学教授・西村美東士)